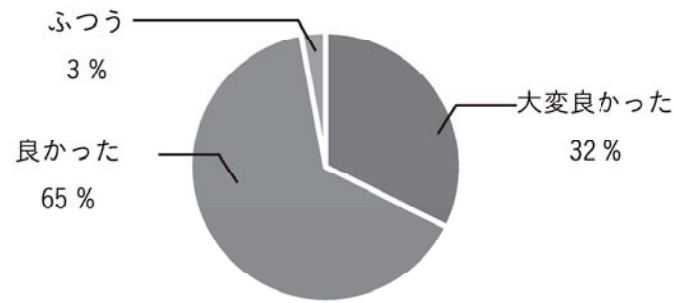


アンケート

満足度



参加者の皆さまには概ねご満足いただけたようです。アンケートに頂いたご意見の中には、「企画は立派だが時間不足」「周りがうるさくグループ内の声が聞こえにくかった」「音響設備によりマイクの声が聞き取りにくかった」などの改善が必要な点も見受けられました。

講演会・トークセッションの感想

これからを考えるいい機会になった／参加型で活動されている方々の生き様・笑顔が良かった／山崎さんのお人柄が印象的だった／わかりやすく、みんなの気持ちも高まったと思う／各パネラーの特徴や発言が聞けて良かった／定住人口よりも活動人口を増やすということに共感した・納得した／総合計画寄りの話がもう少し欲しかった

ワークショップで印象に残ったこと

住民の皆さんが町のいい点・改善点をよく見えていたこと／課題を見つけることも大事なこと／智頭の人に対するイメージが様々で面白かった／感じていることを表現し、伝え合うことが面白い／智頭町職員(若手)が積極的、意欲的であること／普段会うことのない方々と一つの共通作業をしたこと／定住者・移住者それぞれの意見が聞けた

その他

もっと多くの町民が取り組める方法になるといい／これからは楽しみ／みなさんがよく考えて工夫しておられる／素晴らしい総合計画になることを期待する／継続的にリピートすることが必要だと思う

お知らせ

集落アンケートを実施します！

計画づくりを進めていく上で、集落単位での取り組みや、これから移住希望者をどのように受入れていくかなど、各集落の状況に合わせて考えていかなければならない課題もたくさんあります。これからは、主体的に地域活動を促進しながら、移住者の確保と定住促進を図っていくために、まずは各集落の今後に向けた意向を把握することが必要です。そのために町内のすべての集落にアンケート調査を実施します。



総合計画策定ワークショップを開催します！

総合計画づくりを町民のみなさんと進めていくために、総合計画策定ワークショップを開催します。どなたでも参加できます。参加の申し込みやご質問など、智頭町企画課までお問合せください。



第1回WS 9/15 第2回WS 10/20 第3回WS 12/8

studio-L

studio-L (スタジオエル) は、代表の山崎亮が2005年に設立。地域の課題を地域に住むひとたちが解決するコミュニティデザインに携わる。これまでに、いえしま地域まちづくり、海士町総合復興計画など、まちづくりのワークショップや住民参画の総合計画づくりなどに携わっている。

〈問合せ先〉智頭町企画課

[住所] 〒689-1402 智頭町智頭2072-1 [電話] 0858-75-4112

キックオフ講演会 & ワークショップ 山・ひと・暮らしラボ

智頭町総合計画策定プロジェクト

2016.6.25.SAT

13:30-16:30

保健・医療・福祉総合センターほのぼの内ひだまりホール

参加者 100名

プログラム

- ・はじめに「総合計画策定プロジェクトについて」
- ・講演「智頭町のこれからをみんなで描くこと」
- ・トークセッション「智頭町の山・ひと・暮らし」

司会 山崎亮氏
パネラー 大谷訓大氏(早月屋代表)
渡邊麻里子氏(タルマリー)
津田英樹氏(社会福祉法人智頭町社会福祉協議会事務局長)

オブザーバー 智頭町長

- ・ワークショップ「智頭町のいま」

平成29年度から施行される今後10年のまちの指針となる第7次智頭町総合計画を住民のみなさんと一緒に策定していくプロジェクトがいよいよスタートします。そのキックオフとなる講演会&ワークショップ「山・ひと・暮らしラボ」を開催しました。智頭町で活躍する町民の方を交えたトークセッションや、プロジェクトのスタートに向けて実施してきたヒアリング結果を共有し意見交換を行うなど、和やかな雰囲気でのスタートとなりました。

はじめに



寺谷町長よりあいさつ

最近では東京への人口・機能の一極集中が問題として認識され始め、今日の地方創生への機運が高まっています。東京を追いかけるのではなく地方が率先して日本の将来を担うべき時代となり、我が智頭町もいよいよ出番となりました。智頭町の総合計画づくりのためのキックオフとなる講演会・ワークショップにこれだけ多くの方が興味を持って集まってきてくださったことに希望を感じます。町民の皆さんと一緒に10年のスパンで将来を見つめていくことができるような夢のある会にしたいと思います。

講演



山崎亮 studio-L代表 東北芸術工科大学 コミュニティデザイン学科教授
地域の課題を地域に住む人たちが解決するためのコミュニティデザインに携わる。まちづくりのワークショップ、住民参加型の総合計画づくり、建築やランドスケープデザイン、市民参加型のパークマネジメントなどに関する業務が多い。

活動人口を増やすこと

地域を元気にしていくためにはお金を循環させるだけでなく、自分の趣味ややりたいことを地域貢献のために提供することも大切です。私たちは、自分の好きなこと・楽しいことで地域に貢献するような活動をしている人たちのことを「活動人口」と呼んでいます。定住人口や交流人口を増やすという考え方もいいのですが、これから日本は全国的に人口が減少していきます。「幸せに人口を減らしていく」ということを考えることが大切なのではないでしょうか。人口が減ることと、もうだめだという感情とを一緒にしないほうがよりポジティブな未来を描いていけるでしょう。私は活動人口の比率が低い町よりも高い町に住みたいと思います。その方が友達ができる気がするし、自分の力で町を変えていける気がするからです。人口は減少しても、町民のみなさんが楽しく活動している状況を「縮充」と呼んでいます。その方法を模索している人口減少先進地はたくさんあります。この講演会に参加している方々は活動家であると信じています。みなさんを中心に自分たちの将来のために共に活動できる仲間を智頭町でも増やしていきたいですね。

参加の時代

市民参加の形態は歴史とともに変わってきました。1960年代は「反発期」と呼ばれ、反対運動が盛んでした。1980年代以降には、反対だけでなくアイデアを出しているという志向に変わり、「要望・陳情型」の時代になりました。しかし、2000年代になると予算不足のために市民から要望されたことを実行するだけの余力が行政にはなくなりました。市民が自らやりたいことを実現するために活動する「提案・実行型」に変わったのはこの頃です。行政には活動を実行するためのサポートをしてもらうという関わり方をし、官民連携と呼ばれる仕組みも生まれました。参加という視点から様々な業界を見てみると、公園管理、まちづくり、福祉、マーケティング、医療、薬事などあらゆる分野ですでに参加を促す仕組みが始まっています。計画づくりでも同様に、町のことを自分の家族のことだと思って10年後の家族がどうあるべきなのか、それを実現するには今何が必要なのかということ家族みんなで考える。そう捉えれば自らが参加していく必要性を理解しやすいと思います。わが町のことを自分ごとだと考えて一緒に未来をつくっていきましょう。

ワーク1:共感できる?できない?



1つ目のワークでは、プロジェクトスタートに向けて、総合計画策定委員の職員メンバーが地区振興協議会や消防団など、町民の方々へのヒアリングで出てきた智頭町の魅力・課題を、地区ごとの意見として地図上に示したシートを使用しました。それぞれの意見に共感できる場合は赤いシールを、共感できない場合は青いシールを参加者の方に貼ってもらいました。ヒアリングの結果を共有し、智頭町の方がどのように感じているかを一緒に知る機会となりました。

ワーク2:智頭町の魅力と課題を考えよう



2つ目のワークでは、1つ目のワークで共有した智頭町の魅力や課題について、さらに追加したいことを付箋に書きだしていききました。そして、その意見を地図上のそれぞれのお住まいの地区にプロットしてもらいました。そうして出し合った意見を、「住環境」や「農林業」といった分野にグルーピングしていききました。

これまでのヒアリングの結果をさらにブラッシュアップし、智頭町の資源と魅力について整理していききました。

発表



山チーム

自然について「いいな」という意見がたくさん出てきたが、他の地域にもあるものなので、どう生かすかが課題。また、外の人から見ると智頭宿や石谷家の魅力がわかりにくいので魅力の伝え方を考えるべきだと思います。



ひとチーム

「交流」の側面では、行事が多く、おせっかいな人がいることに肯定的な意見が多く出ました。課題としては、交流を避ける人もいること、熊がいるので気軽に散歩できないなどが挙げられました。



暮らしチーム

智頭の特産品や手作りのものを売るショップなど小さいビジネスを集める仕組みがあったらいいのでは。また、高齢者同士が交流できる場を作りひきこもり対策に力を入れて欲しいという要望がありました。



まとめ

とても活発に議論する場となり、他の人の意見を聞くことで新たな気づきもあったのではないのでしょうか。役場の職員にとっても生の声を聞くことができたのは貴重な体験で、みなさんが智頭のことをよく見ていること、様々な想いを抱いていることを再認識することができました。今回の場でできたつながりが今後も長く続くものであることを期待しています。



智頭町にUターン、またはIターンして移住してこられた3人のパネラーをお招きし、トークセッションを行いました。テーマは「智頭町の山・ひと・暮らし」。それぞれの活動や移住のきっかけ、智頭の魅力と今後への展望について話をいただきました。司会は山崎亮さん、オブザーバーとして寺谷町長にも登壇いただきました。

移住のきっかけなど現在の活動について教えてください。

大谷さん アメリカに滞在していた間に日本人としてのアイデンティティが芽生え、地元に戻って仕事をしたいと思うようになりました。実家の持ち山の手入れが行き届いていなかったこともあり、林業をなんとかしようと思ったのが智頭での林業人生の始まりでした。当時は「自伐林業」ということを意識していたわけではありませんが、智頭の方々が代々受け継いで来られたように、自分の家の山を自分自身で手入れするという生き方をしていきたいと決意を固めました。最近自伐林業というもの注目されているのは全国的に未管理の山が増えていることが影響しているのかな、と感じています。

渡邊さん 私たちはタルマーリーというお店で自家製酵母を使ったパンを智頭に来る前から製造していました。移居前、事業の組立て直しとビールづくりをしたいと考

えていたこと、子どもたちを自然の中で育てたいという思いがあったことから、それらをすべて実現できる場所を探していました。いろいろなつながりのおかげで現在の店舗がある旧那岐保育園に出会い、すべての希望が叶うということを感じ、移住を決めました。その後、町長を含め地元の方々が建物改修のための木材を提供して下さるなど、全面的にバックアップして下さったことが今の生活につながっています。

津田さん 大阪の会社でシンクタンクのような部署に勤めていた頃、介護事業について研究していました。その部署では農業体験を智頭で行うなど交流があったので、業務の一環として訪れたことが智頭との出会いです。とてもいい場所だと感じ、智頭に来ることが息抜きの時間となりました。いつも村の方が集まってきて食事を一緒にするというところがいいなあ、と思っていました。特別養護老人ホーム心和苑を民営化する際に、私が福祉に詳しくないこと、人手が足りていなかったことから呼ばれたのが移住したきっかけです。現在は築140年以上の古民家に住んでいますが、移住してからもご近所さんが家を訪ねてくれることがとても楽しいです。

智頭町の魅力と今後の可能性について、どのようにお感じになられていますか。

大谷さん 智頭は移住してくる方も多いので、外に出なくても一期一会のような経験ができるところがいいところだと思います。林業については、すでに400年続く伝統があるので自分一人で背負えるものではないですが、次の世代につなげていきたいという思いはあります。智頭のいいところは、林業地なので市場が近くにあるので木がすぐにお金になるところですね。間伐しながら山の成長と収入をバランスよく保っていききたいです。



大谷訓大さん

智頭町出身。専門学校卒業後渡米したが帰国後に地元の自然の良さに惹かれ、実家の山を継ぐことを決めた。



渡邊麻里子さん

東京都世田谷区出身。2児の母。岡山でパン屋を経営していたが、子育て環境や天然酵母と自然栽培原料を求めて移住。



津田英樹さん

大阪府岸和田市出身。大阪での勤務時に業務でつながりのあった智頭と交流を始めて20年、移住して10年が経つ。

渡邊さん タルマーリーは天然の酵母を使っているところが特徴ですが、肥料・農薬を使用していない農産物でないとうまく発酵しません。それらを手に入れるには地域の方々に私たちの考えを共有してもらう必要があります。智頭ではみなさんがそれを理解し、協力して下さることに驚きました。やりたいことを発信すると政策に届くことが新鮮で面白いです。また、タルマーリーは地域内循環を実現する場となることを目指しています。例えば、管理された森林のおかげで綺麗な水を使えるので、薪を使うことで貢献していきたいです。

津田さん 智頭では病院・福祉課・社協・特別養護老人ホームが全て同じ場所にあるので、高齢者の状況の共有や必要なサービスへの対応がとても早いことが魅力です。社協の職員として目指すのは住民の方々が幸せに暮らすことです。幸せというのは、友人や住民との交流という社会性を保つことが当たり前に行えることだと思います。現在、36集落ほどの中で、60歳以上の人が定期的に公民館に集まってご飯をつくって話す機会がありますが、これはすごいことだと思います。私の家にも友人が頻繁にご飯を食べに来ます。人が集まって一緒に食事をする場をつくっていくのが私の仕事だと思っています。

寺谷町長 何かをやりたい、こうしたいという人には本気でバックアップしなければならないと感じています。小学校の旧校舎の使い方は地域で決めてください、と宣言しているように、地域の夢やロマンを自らが提案・実行していただいて、町が資金面などでサポートするしくみを確立させていきたいです。これからのまちづくりでは、地区ごとなど、小さい単位でコミュニティをつくっていく必要があります。人口を増やそうとするのではなく、肩を寄せ合いながら楽しく幸せな生活を町としても住民自身としても追求することが原点となるのではないかと

と思います。

大谷さん 私が携わる林業は先人の思いを感じる仕事です。僕らが切っている木は一、二世世代の方が植えた木で、今、間伐して残す木は次の世代につなげていくという長いサイクルの中で成り立つ職業です。このように永続的に管理されている山から持続的に収入を得るというのが自伐型林業の基本だと思います。ゆるい持続性を持ちつつ、楽しみながら何か地域のための活動ができて、豊かに生活していくことができる人が増えれば楽しい町になるんじゃないかと思います。



総合計画づくりでは地域の方になるべく来ていただいお互いのことを知ってもらう機会がつけられる場を目指します。小さなコミュニティづくりのための信頼関係が築けたり、集まる人が増えたりすることは立派な計画ができること以上に地域にとっていいことになるのではないのでしょうか。また、将来像の実現のための方法を考える時に「長続きできるのかどうか」を考えて自らが1つずつ決断していく必要があります。総合計画は10年計画ですが、さらにその先の90年を見据えた上で、これからの10年ですべきことを考えていく。そうして智頭町らしい総合計画を策定していきましょう。

ワークショップ

ワークショップは智頭町の魅力と課題についてヒアリングで得られた情報共有をするとともに、より多くの方々から新たな意見を出してもらうことを目的として行われました。参加者の皆さんには山・ひと・暮らしのうち興味のあるテーマに分かれてもらい、2つのワークを実施しました。



カードを使って自己紹介

ワークショップの始めに、名札に記入した「お住いのエリア」「智頭の山といえは」「智頭のひとは」「智頭の暮らしで大切にしたいこと」を共有しながら自己紹介をしてもらいました。智頭町民だけでなく町外から来られた方もおられ、いい交流のきっかけとなりました。若い世代の参加者も多いことが特徴で、普段は話す機会のない幅広い年代の方々同士で情報交換ができたことがとても好評でした。どのグループも笑顔の絶えない楽しいひと時となったようです。



総合計画策定プロジェクトについて

このプロジェクトでは10か年計画となる第7次智頭町総合計画の策定を行います。総合計画とは、町で行われる施策の指針となるものです。すなわち、10年後の智頭町がどうあるべきかを考え、それを実現するための町の施策のあり方を明らかにします。現状の課題と町民の意見を受け止めた上で計画を立てることで町民の生活をより豊かで活力あるものにするをねらいとしています。町民のみなさんにプロジェクトに参加していただくことで、町・町民・行政が同じ方向を向いて進んでいくことができればよいと思います。今後は策定委員会と協議しながらみなさんの意見を反映させた計画を作っていく予定です。



第6次智頭町総合計画

コミュニティデザインの取り組み事例

コミュニティデザインとは、地域の人たち自身が自分たちの地域の将来を考えて、その将来に向けて活動を、デザインの力でお手伝いする仕事です。2005年から10年間、各地で実施してきたプロジェクトをご紹介します。



有馬富士公園 (兵庫県)



海士町 (島根県)



縁活プロジェクト (大阪府)

行政が全て運営管理するのではなく、市民活動を公園の運営管理へとリンクさせるパークマネジメントを展開したプロジェクト。公園内で市民に活動してもらうことで、遊びに来た人との対話を生み出す仕組みをつくりました。生き物観察や凧あげの団体などが日替わり、週替わりで継続して活動しています。

住民参加によって取り組んだ総合計画策定プロジェクト。一般的な行政の計画書とあわせて絵本のような冊子をつくり、住民自身が計画を実行に移せるようにしました。合計24種類のまちづくりの活動が行われています。みんなで一体となってやろうという関係性・雰囲気づくりがポイントとなりました。

あべのハルカス近鉄百貨店内にスペースをつくり、市民活動団体、地域のみなさん、ボランティアと百貨店と一緒に折り紙教室やパソコン教室など、日替わりで活動をしています。訪れる人が帰りにお土産を買ったり、買い物客との出会いの場となるなど、みんなのための縁をつなぐ場づくりをしています。



観音寺 (香川県)



十日町 (新潟県)



しまのわ2014 (広島県)

商店街の活性化プロジェクト。シャッター街になっている商店街で、営業している店内のスペースに別の業種のお店を入れる、「Shop in Shop」という取り組みを進めています。また、情報発信の取り組みとして「今宵も始まりました」というFacebookグループをつくり、飲み仲間の中からメンバーを増やしています。

まちなかを公園のように遊べる場所にしようという想いで取り組んだプロジェクト。まずは市民活動を起こし、活動拠点の必要性が出てきて初めて、対話により拠点・建物のデザインを考えていくというプロセスでプロジェクトを進め、商店街に市民活動の拠点となるリノベーション施設がオープンしています。

広島県と愛媛県の沿岸部と島しょ部で開催した観光まちづくりイベント。地域活動を継続させるきっかけとなるイベントとなりました。地元の人の日常と一緒に体験することは訪れる人にとって魅力的です。やりたいこと・できることをやれば地域に貢献できるというしくみが地域をより良くしていくのではないのでしょうか。